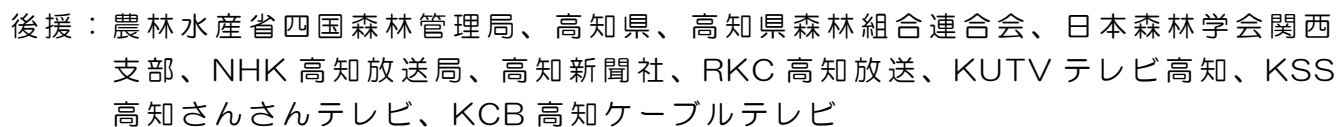


～森林（もり）もダイエットで健康に！～

**参加費無料**

<森林管理局駐車場から会場までは徒歩で10分程度です>

URL <http://www.ffpri-skk.affrc.go.jp/>



裏面もご覧下さい

人工林の健全な生育には、間伐などの手入れが欠かせません。

混み過ぎた森はメタボ状態であり、間伐はいわば「森林のダイエット」です。

しかし人間でも急激なダイエットは弊害が心配されています。急激な森林のダイエット「強度な間伐」は大丈夫？それとも、切り過ぎ注意？

近年各地の林業現場で注目されている「強度間伐」のリスクを評価し、また作業の安全性や収益性にも踏み込んで考えてみましょう。

## 【講演内容】

### ＜風害を知ってリスクを避ける＞

森林総合研究所 気象環境研究領域 鈴木 寛

間伐を行なった直後の数年間は、森林はとくに風害を受けやすいと言われています。間伐によって林冠に穴があき、残存木に強い風が当たるようになるためです。風害の受けやすさは、地形や林況、間伐の仕方によって変わってきますが、過去の発生事例から危険性の高い条件を調べてみました。また、様々な条件の下での危険性の高さを数字で評価してみました。

### ＜混んだヒノキ林を空かすとその後の成長はどうなる？＞

森林総合研究所 四国支所 奥田 史郎

ヒノキ林は植えたまま放置しておく、木が大きくなるに連れて隣の木と接して満員電車の中の様な状態になってしまいます。でも、急に大きく空かすと周囲の環境が変わってしまい、新たに適應するのが大変になるため、それまでと同じように成長出来なくなるかもしれません。そこで、空かした後のヒノキ林がどの様に成長出来るのかを調べてみました。

### ＜スイングヤーダ(\*)をより安全に＞

森林総合研究所 林業工学研究領域 広部 伸二

近年、傾斜地での間伐木の集材機械としてスイングヤーダの普及が進んでいます。スイングヤーダは非常に簡単に用いることができる機械ですが、過去に重大災害の発生例があり、その改善が求められています。作業の効率性を損なうことなく安全に使用するための、付属装置あるいは器具の可能性について紹介します。

(\*) 建設用ベースマシンに集材用ウィンチを搭載した旋回可能なブーム（腕木）を装備する集材機。

### ＜伐採率をあげると間伐の収益性はどう変わっていくのか＞

森林総合研究所 林業工学研究領域 田中 良明

間伐は、文字通り、木々の間から木を伐採して収穫する作業です。一般に間伐時には、残される木が邪魔になりコスト高の原因となります。そこで、伐採率を上げると作業が行いやすくなり、コストが下がり収益性の向上を期待できます。この研究では四国の代表的な間伐作業システムに対して現地調査、分析を行い、間伐作業モデルを作成し、シミュレーションによって伐採率と間伐の収益性の関係を明らかにしました。